

調査項目 ③「公園緑地施策における風水害対策のあり方」に関する調査研究

調査年次 令和2年度（11次調査）

目的

近年の世界的な気候変動等に伴い、台風や豪雨等により、大きな被害が生じることが増えている。こうした中、公園緑地は、樹林による防風や水害の軽減・防止など都市部の風水害に対する防災・減災において一定の役割を担う一方、樹木の風倒等による交通遮断や建築物損壊等の被害の発生源となりうるなどのリスクを抱えている。

今後も従来の想定を超えた風水害の発生するリスクがあることを踏まえ、これからの持続可能で災害に強い都市づくりのためには、公園緑地における風水害に対する防災機能のより一層の向上が必要との認識のもと、これに絞った調査をすることを目的とした。

概要

以下の内容について調査を行った。

- ①各都市の風水害対策等の状況把握
- ②国内外の先進事例の調査
- ③風水害対策の留意点や今後の課題の整理

結果

①共同調査参加都市に対するアンケート調査により、以下の状況について把握した。

- ・近年の風水害発生状況
- ・グリーンインフラや防災系統緑地の位置づけ
- ・具体的な水害対策の取組み
- ・具体的な風害対策の取組み

②上記①の観点にもとづき、共同調査参加都市以外での先進事例について、文献調査やヒアリングにより把握。

③各都市の状況把握、先進事例の調査などによる検討を踏まえ、風水害対策のあり方や留意点、課題について考察した。

まとめ

水害対策では、流域治水における「都市のみどり」が担う雨水流出抑制量等の治水目標を明確にし、その役割を果たすための実効性のある取組みを推進していくことが求められる。自然を活用した施設の効果測定や技術基準の策定に取り組む必要がある。風害対策としては、樹木点検の効率化、従来の診断では対応の難しい根返りの防止に向けた取組みなどの必要性が増している。

調査結果の反映等

キーワード

グリーンインフラ、流域治水、防災・減災

事例公園等

雨庭による雨水流出抑制・修景等の取組み【京都市】
都心の民間施設緑地における雨水流出抑制【東京建物】
ポートランド市における多様なグリーンインフラ施設整備による水害対策の取組み
船頭場公園における高台広場の整備【名古屋市】